

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400404		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の郷(ツツジユニット)		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706-4		
自己評価作成日	令和5年9月18日	評価結果市町村受理日	令和5年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和5年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様主体の支援に努めています。自宅で畑をしておられた方にプランターでの野菜作りをして頂いたり、家事の手伝いなど出来る力を活かした生活が送れるよう支援させていただいています。広い中庭には季節の花が植えてあり、利用者の皆様楽しんでいただけるよう、いつもきれいに整備がしてあります。ベンチも置いてあり日差しが強い時にはパラソルを広げ、談笑したり歌を歌ったりゆっくりくつろいで頂けるようにしています。コロナウイルスが5類に移行してから面会制限も緩和しており、ご家族との交流を持っていただけるようにしています。職員育成に努力しており、外部研修(リモート含む)への積極的参加、園内研修の定期的な開催など、職員の学びの機会を増やしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活歴や思いに寄り添い一人ひとりの役割や力を活かした支援の実践に努めている。毎日のプラン評価や会議やモニタリングを通して個別な介護計画を立ててケアを振り返っている。家族へ毎月送るたよりに担当から写真や日頃の様子を知らせたり電話でのやり取りに工夫している。管理者は職員研修(内部、外部)や個人面談の機会を確保し働きやすい職場環境をつくりに努めている。来年度義務化される事業継続計画(BCP)は職員全体が取り組めるよう意見交換会などで検討を重ね策定に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、会議室の見えるところに掲示してある。理念を基に事業所の方針を決定し実践に繋がれるよう定期的(主任会、合同会議など)に話し合いを行っている。	理念を基に方針を立てて実践している。毎月の会議や話し合いで職員はケアプランや日々のケアが理念に沿った実践となるように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	食材は地域の商店で購入。行事の際のお弁当を地域の店でお願ひすることもある。地域の方を招いて行う行事はコロナ感染予防の為中止しているが、地域の作品展に声をかけていただき出品をした。	ボランティアや行事を通じた交流はできないが、毎月発行しているたよりで活動を知らせている。作品展には壁絵や個々の作品を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の理解や支援の方法をお話させていただいているが、今年度も書面にて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の観点から、書面にて活動状況、事業所報告を行っている。意見もいただきサービスの向上に努めている。	書面で活動状況や入退去、コロナ感染症予防対策、職員採用などを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換を行い、協力関係が築けるよう努めている。	必要に応じて相談をしたり情報提供を受け協力して取り組んでいる。たよりは相談センターにも届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は、身体拘束をさせていただいている方はおられないが、年1回研修を実施し理解を深めている。外へ向かわれる利用者があるが利用者の思いに添って付き添い出掛けて頂いている。	定期的な会議や内部研修、リモート研修で継続的に学習し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ずベットの柵を使用時した時は手順に沿って家族の了解、廃止に向けて毎月の検討などを行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回研修を行っている。月1回の事業所の会議にて言葉遣いや対応、ケアの振り返りを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回園内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、主任で行っている。ご家族と充分に話し合い理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置している。外部にも苦情相談窓口がある事を説明している。ご家族には来園時や電話にて意見、要望を聞くようにしている。実際に意見があった時は会議にて話し合いをしている。	家族の訪問時や電話で意見を聞いている。担当職員も家族へ日頃の様子や写真を載せ個々にたよりを送り家族との関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談で意見を聞き、反映できるように努めている。	管理者は日頃から職員が話しやすく、意見を言いやすい職場づくりに努めている。夜勤専従者と意見や提案を聞き、より良い関係が作れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働く条件に対応している。人事考課、表彰制度等を取り入れ、職員の意欲向上、レベルアップなど向上心を持って働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップに繋げるため、外部研修を受ける機会を設けている。また月1回の事業所会議にて研修の機会を設けている。コロナ感染予防の為にリモートでの研修の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH・小規模多機能部会にて研修会、親睦会等交流の場があるが、コロナ感染拡大予防の為に実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談の機会を設け情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談の機会を設け、要望等に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に調査を行いGHでの生活が適切か、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の出来ることを把握し、一緒に行い暮らしの支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご様子を電話や毎月のお便りで伝えている。お便りには写真も載せている。ご家族と電話でお話ができるように支援している。コロナが第5類になって以降人数や時間の制限はあるが面会も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出は制限しており、これまでと同じようにはいかないが、話題に取り入れたり、写真を見ながらお話をさせていただいている。	利用者の希望で手紙や電話で連絡ができるようにしている。会議室利用で面会時間や人数も徐々に制限を緩和し職員は家族との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握に努め、席の配慮をしたり、一緒に家事をしていただいたり、利用者同士の関係づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いに耳を傾け、その人らしい生活が送れるよう努めている。ご本人の想いをケアプランに反映し実践している。	利用者のこれまでの生活を知り、日々の支援の中で表情や言動に注意しその人らしく過ごしてもらえるよう努めている。「帰りたい」と外に出かける利用者に職員は協力しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネ、入居前の施設等より情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の様子を観察し、現状把握に努めている。一人一人の生活歴、介助の方法、内服等を記載した手順書を作成し、職員同士情報の共有、ケアの統一に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の意向を聞き、ケアプランに反映させている。毎月の会議にてカンファレンス、モニタリングを行い、計画作成を行っている。	個人記録にわかりやすく短期目標を表示し、毎日評価し、会議やモニタリングで情報を共有し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践、ケアプランの評価を記入している。職員間で情報を共有しながら実践している。ケアプランは3ヶ月ごと、または状態が変化した時にも見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染拡大防止の為、地域のボランティアとの交流は持っていない。桜の名所や空港等へのドライブの機会を作り楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続にて、受診や往診を行っている。主治医への報告、相談を密に行い関係づくりに努めている。在宅療養後方支援を活用し主治医との連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者それぞれのかかりつけ医と関係を取り適切な受診や往診ができるよう支援をしている。受診の結果は家族に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を看護師へ報告、相談を常に行い、看護師に指示を仰ぎ早めの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、病院の相談員やご家族と小まめに連絡を取り、状態把握に努め、職員同士の情報の共有を行っている。入院時に医療連携シートを作成し、病院へ情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族へ終末期ケアについて説明をしご家族の意向を聞くようにしている。利用者の状況に応じて施設で出来ることを都度ご家族と話し合うようにしている。	入居時に事業所の方針を説明している。利用者の状況変化があればその都度家族や関係者と話し合いを行い本人・家族の意向に沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受けている。また会議で急変時の対応シュミレーションを行い確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。備蓄等の確保もしている。火災時の避難訓練は年2回実施し、職員は利用者が安全に避難できる方法を身につけている。	利用者全員参加で避難訓練をしている。今年2回目の訓練は消防署との合同訓練を予定している。地震対応として押し入れの布団の置き方など身近な所から検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声の大きさ等に配慮している。職員一人一人が意識するよう休憩室、ロッカー等数か所に言葉の言い換え表を掲示している。また会議の中でも話し合っている。	言葉づかいや声の大きさに配慮したケアを心掛けている。声が大きかった時は後で職員同士で注意し合うこともある。言葉の言い換え表は時にはカウンターに置くなど場所を変えて意識づけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思決定が出来るような声がけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体を念頭に、一人一人のペース、希望に沿った生活支援に努めている。(食事の時間、場所、休憩時間など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、整容等その方に合わせた支援を行っている。毛染めを希望される方(家族)あり、思いに添った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、食器拭きなど一緒にやっている。職員は利用者と同じ食事を摂り、時間を共有している。	利用者のできることを活かしながら調理や片付けを職員と一緒にしている。誕生会や敬老会の食事、季節に合わせたスイカ割りやおはぎ作りなど楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせた食事量、食事形態での提供を行っている。食事量が少ない方には補食をしたり、水分量が少ない方には水分チェックをしながら好みの飲み物やゼリー等を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行いその方に合わせた支援を行っている。使用する物もその方に合わせて使用している。義歯の方は每晚ポリドントで洗浄もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握をしている。声がけ、誘導を行いトイレでの排泄に向けた支援に努めている。	利用者に合わせてトイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。皮膚の状態によりおむつの当て方を工夫し日々検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の声がけ、乳製品等の提供をしている。また必要に応じて下剤等でコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の思いを大切にしながら個々に添った支援を行っている。	利用者の気分によっては時間や曜日を変えて体調やタイミングに合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や思いを大切に、体調等その時の状況に応じて休息して頂いている。夜間安心して休んで頂けるよう、日中の活動を活発にしたり、お話を傾聴するなどの対応をしている、ご家族への電話の支援などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容が分かるよう個人の医療カルテがある。皆が確認出来るようにしている。内服薬変更時には職員に周知し、様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の出来ることや楽しみを把握し、個々に合わせた活動の支援を行っている。中庭でお茶を飲みながら季節を感じた、談笑する場を設けている。ハーモニカが得意な利用者が他の利用者に披露される場面もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は中止しているが、中庭の散歩やドライブにて気分転換を図っている。	感染症対策を行いながら戸外に出かけられるよう工夫し支援している。ユニット間の協力で飛行場やダムへのドライブを楽しんだり、中庭の散歩やお茶会を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かり、必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話が出来るように支援している。携帯電話を持っておられる方には利用を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や室内の明るさ等に配慮し、過ごしやすい空間づくりに努めている。季節を感じられるよう花や壁面飾りを飾っている。利用者自ら庭に出て花を摘んできて飾られることもある。	花を飾ったり壁飾りを作り季節を感じられるよう環境づくりをしている。木材をふんだんに利用した共用空間は所々にソファや椅子があり利用者は好みの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの色々な所にソファや椅子を配置し好きな場所で過ごしていただけるようにしている。中庭でもゆっくり過ごせるようベンチやパラソルを準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っておられた家具などを持ってきて頂くよう声をかけており、居心地の良い空間づくりに努めている。ご家族の写真を飾っておられる方もおられる。	使い慣れた家具やテーブル、置き物などが置かれている。たくさんの家族写真や誕生日プレゼントの色紙が壁一面に飾ってある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室に表札をかけ分かりやすい工夫をしている。ポータブルトイレ等補助具を使用し、自立した生活が送れるよう工夫している。		